

し

ShikaTown

か



12月15日に上熊野保育園で行われた餅つき会。たんぼぼ組からひまわり組の園児30人が参加しました。

出来あがった餅にあんこ、大根おろし、ごま、抹茶きなこを付け、保育園で育てた野菜がたっぷり入った豚汁とつつしよにおいしく食べました。

INDEX

特集 町長新年のご挨拶	2
物品売り払いのお知らせ	8
まちかどルポ	12～13
情報パーク	14～16
生涯学習だより	17～19

1

2011
No. 65



志賀町長

小泉 勝 謹賀新年

明けましておめでとござい
ます。

町民の皆様には、清々しい新春
をお迎えになられたことと、心
からお慶び申し上げます。

昨年を振り返って

昨年は記録的な猛暑が続き、お
年寄りや子どもたちまで、熱中
症予防など体調管理が難しい夏
でした。また、農作物に関しても、
高温と多照が原因と思われる品
質や生産量の低下があり、特産

品などにも影響を及ぼし、たいへ
ん心配しています。

昨年11月北陸の金融経済月報に
よりますと、「北陸の景気は持ち
直しの動きが弱まりつつある」と
あります。個人消費に関しては、
エコカー補助金終了後の乗用車販
売は大幅に減少しており、家電販
売に關しても、エコポイント縮小
前の駆け込み需要で、主力の薄型
テレビの販売が大幅に増加しまし
たが、乗用車販売と同様、今年3
月末の家電エコポイント制度の終
了により、減少すると思われる。

次世代を担う子どもたちを安心
して育てるため創設された「子ど
も手当」に關しても、民間需要が

増え、経済活性化のカンフル剤に
なることを期待しておりました
が、今のところ目に見える大きな
変化は無いようです。

依然として景気低迷の影響は大
きく、雇用情勢は、厳しい状況の
ままで、暗いニュースが続く一年
でした。

そのような中、ベアリング（軸
受）や精密機器商品などの製造・
販売を行っているNTN株式会社

には、昨年1月に「株式会社NT
N志賀製作所」を堀松工場団地内
に立ち上げていただき、更に能登
中核工業団地でも12月に「株式会
社NTN能登製作所」の設立を發
表していただきました。能登製作
所は、平成24年4月に従業員90人
で操業する予定であり、石川県な
どと町が力を注いでいた企業誘致
が実を結び、本当にうれしく思っ
ています。

魅力あるまちづくり

「まちづくりは人づくり」であ
ると考えています。小さな頃から、
故郷（ふるさと）、地域活動、伝
統文化を大切にすることを育む教育
に力を注ぐ必要があります。また、
魅力ある町には、魅力ある多彩な
人たちが集まります。そのような
方々、そして、若い世代の方々が
志賀町で定住できる環境を整えて
いきます。

定住促進対策として、平成20年
9月より予約分譲を開始した「西
山台ニュータウン」は、現在では、

全89区画中おおむね8割の契約で、内42棟が既に完成もしくは建築中となっています。今後も、企業誘致に力を注ぎ、「働く魅力」「住む魅力」にあふれるまちづくりを目指します。

やすらぎのまちづくり

少子高齢化、過疎化の進展は、能登地区の市町が頭を悩ませている問題の1つです。その中で、私たちの町では、少子化への歯止めそして定着促進を目指し、町独自の取り組みを行っています。

「第3子以降の出産を対象にした出産祝金」、「中学卒業時までの乳幼児・児童医療費助成」、「第3子以降の小・中・高校入学助成」など子育て家庭への経済的な支援を行っています。また、子供たちの健康を守ることを目的に、今年度より「子宮頸がん予防ワクチン接種」の費用全額助成を始めています。

高齢化については、昨年12月1日現在、町の65歳以上の人口は7、

629人で、高齢化率は約33%となっています。保健・福祉・医療体制の充実を図るのはもちろんですが、買い物や通院などに利用していただくためのコミュニティバスの運行や、介護サービスの充実など、一人暮らしの高齢者や高齢世帯、障害者の皆様にも、日常生活を無理なく営むことができる環境を整備していきます。

活気ある明るいまちづくり

私たちの町は、能登有料道路のインターが3カ所あり、能登空港も近く、そして、能越自動車道的全線開通や北陸新幹線の開通、能登有料道路の全線無料化を控える交通便利性の高い地域です。そのメリットを活かし、県などと協力しながら企業誘致を積極的に行っています。雇用の場が増えれば、労働人口、若年層の人口増も見込まれ、そして、町全体が活気づきます。現在のように景気低迷時代においては、行政と民間が、知恵を出し合い、協力して、「活気あ

る明るい志賀町」のために努力していかなければならないと強く感じています。

昨年6月、北陸電力より、志賀原子力発電所1号機で導入を目指すプルサーマルについて事前協議の申し入れがありました。北陸電力には、住民の皆様の原子力発電に対する思いを真摯に受け止め、「安全・安心・安定」の構築を目指した取り組みを継続し、十分な説明をするよう強く求めています。その上で、住民の皆様の貴重な意見を尊重し、議会とも相談しながら判断していきます。

また、原子力立地に伴う恩恵に頼るだけではなく、町の財政事情をオーブンにして住民の皆様が理解していただき、住民と行政が一体となって、財政的に自立した「稼げる自治体」を目指していきたいと考えています。

未来へのまちづくり

これまでのまちづくりは、能登金剛や志賀の郷といった豊かな自

然を活用した観光産業、地域特性を生かした農林水産業の振興、原子力発電所の立地や能登中核工業団地への企業誘致などを重点的に行ってきました。

これからの私たちの町「志賀町」は、決して予断を許さない財政事情を念頭に置き、さまざまな環境変化と住民の真に必要なとして、いるニーズに応えられるよう、行政改革を推し進めながら、柔軟かつ機敏に対応しなければなりません。そして、子どもから高齢者まで全ての住民が、「将来にわたって安心して暮らせる、魅力的で笑顔があふれるまちづくり」を目指し、全力で取り組んでいきます。

結びにあたり、今年1年が皆様方にとっても、志賀町にとっても良い年でありませう、心から祈念いたします、新年のごあいさつといたします。

平成23年元旦